

## わがチラ裏ブログより転載

<http://www.ma-2.com/blog1/>

ふちんかん

実は前回は連載50回目でした

### 木星土星が接近して見える 202012

夕方、西の空に明るく見える星が2つ。惑星の木星と土星である。この2つの星が日に日に近づいていき、21日には視野角0.1度まで接近した。

徐々に望遠鏡を取り出し、アダプターを付けてカメラで撮影してみた。

天体撮影の場合、露出（絞りやシャッター速度）はマニュアル、ピント合わせは望遠鏡側で行う。

ピント合わせやシャッターを押すだけで望遠鏡が揺れるので、10秒のセルフタイマーを用いて撮影した。

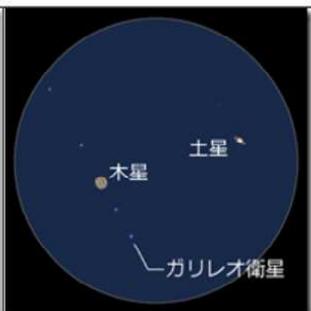
天体望遠鏡で撮影…ということ、右のような写真を想像すると思うが、素人が買える望遠鏡では、下の写真程度である。



2020.12.20撮影



何とか土星の形が見える？



ガリレオ衛星を写すと木星は露出オーバーとなる



撮影をしているうちに、西の稜線へ没していったので、上弦の月も撮影。

こちらは惑星と違って、大きく明るいので撮影は楽である。

上弦の月は、横から光の当たるのでクレーターの凹凸が分かりやすい。

ちなみに月の直径は地球の 1/4、木星は地球の 10 倍なので、40 倍の差があるのだが、距離が圧倒的に違うため、見た目の大きさはご覧の通りである。



## 三日月と地球照 202101

久々に三日月の撮影をした。左が昨夜で月齢 2、右が今夜で月齢 3



三日月というのは、新月を 1 日目として 3 日目の月という意味。そういう意味では左の写真が正しい三日月ということになる。

輝いているのは太陽の光を反射しているからだが、それ以外の部分もうっすらと形が見える程度に見ることができる。これは地球照といって、地球に当たった光が反射して月を照らし、それがまた反射して見えるものだ。日本よりも西にある昼間の地域（角度的に東欧あたりか）に当たった光が、38 万キロ離れた月との間を往復して、今見えているということだ。



## 朝の虹 202011

最近夜明けが遅いので、日の出や朝焼けの撮影がはかどる（寒いけど）。

快晴よりある程度の雲が出ていないと、映えないものである。

この日も雨の後、雲が残っていたが、朝日を反射して美しい朝焼けとなった。そして西の空には虹。



東に日の出



朝焼けの美しい朝であった。



西に虹、時刻は6時半

## 突然のエンジントラブル 202012

職場からの帰路でエンジントラブル。

走り出してすぐの県道に出る交差点で通過待ちをしているときに突然エンジンが止まったのだ。エンストなんて、車をオートマにして以来、もう二十年以上経験していない。そして困ったことに単なるエンストではなく、スタートボタンを押してもエンジンが再始動しない。一瞬バッテリー切れが頭によぎって、ライトはもちろん、エアコン・オーディオ・タブレットなど電装関係をすべて切ってみたが、やはり始動しない。そもそも電装のスタートボタンは反応しているので、バッテリー切れではないのである。しかし症状としては、弱々しくセルモーターが鳴く、いわゆるバッテリー切れのような状態。交差点にちょっと突っ込んでいる状態だったので、たいへん困った。

その後、人手を借りて車を移動させようと動かしているうちに、なぜかエンジンがかかった。これ幸いと安全な場所まで移動させ、ディーラーに連絡した。エンジン内に煤がたまって不具合が発生しているのが原因かも、とのこと。その日は、いつエンジンが止まるかとビビりながら帰宅。週末にディーラーで見て貰い、内部のコンピュータのデータをメーカーに送って調べることとなった。

けっきょく、ディーラーさんの想像通り、煤がエンジン内部の部品に悪さをしているらしいとこのことで、エンジンを外して分解して部品を取り替えるという大がかりな修理（無償）となった。

ちなみにトラブル直後の点検で、今回の原因ではないもののバッテリーが弱っていることを指摘され、別項のバッテリーを交換することとなった。

## バッテリー交換 202012

2年半前に交換したバッテリーが早くもヘタリ、交換することにした。

例によってディーラーで交換すると5万円強との見積もり。前回はバッテリーをネットで買って、ディーラーで付けてもらったが、今回は取り付け費用が倍の8800円になるといふことで、取り付け工賃3300円の宇佐美サービスステーションに頼むことにする。アマゾンで買ったバッテリーを宇佐美に直送。取り付け費込みで18000円強ですんだ。

交換後、明らかに乗り心地が良くなり、加速がスムーズになった。

この現象は今では常識らしいが、どういう理屈なのだろう？これまでが小さなノッキングなどで乗り心地が悪かったということだろうか。



## ネーミングセンス

うちの家族はポテチ好きである。特にピザポテトが大好きなのであるが、第2の人気としてはハチミツ味の「しあわせバター味」が来る。私は当初、甘いポテチを頭が受け入れ難かったのだが、食べてみると確かにイイ。「甘いはうまい」※である。

「はちみつバター味」ではなく「しあわせバター味」

この甘いポテチを「しあわせ」と表したことは、秀逸であると思う。味付けの素材が4つなので「4あわせ」としたという説明があるが、食べたときの「幸福感」がベースにあることは間違いない。

フレーバーそのものではなく、食べたときの感覚をも表現したこのネーミングには、驚いたし、納得もした。そして私には到底思いつかない発想であると脱帽したのである。

学生時代に吊り広告で見た「カツ丼絶好調！」という料理雑誌のあおり文句が、妙な説得力があって感動したことがあったが、「幸せバター」のインパクトはそれ以上だ。

思うに、こういった直接的ではないもの同士を結びつけるという発想は、私には難しいのかも知れない。普段から1つのモノから連想を広げていくという手法を採りがちで、複数の違うセグメントから触手を伸ばしていくという発想が無いからだと思う。



※ 「甘いはうまい」は東村アキコの作中の造語で、もとは北大路魯山人の「うまいは甘い」。